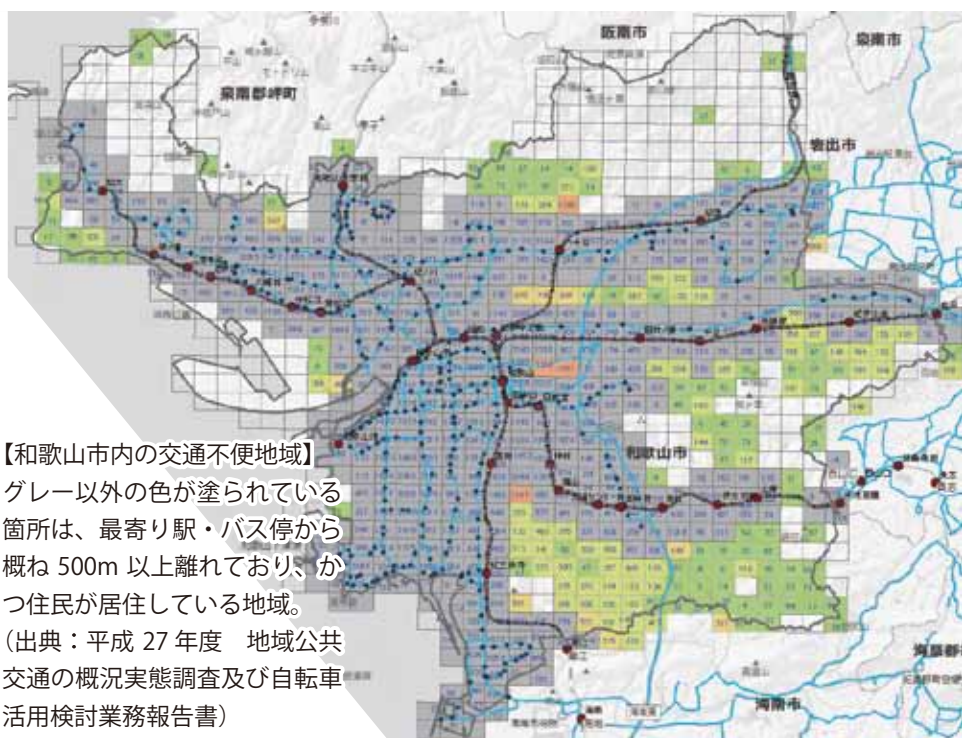


年々深刻に？「公共交通」を考える（1）

今年 3 月に実施される JR ダイヤ改正で和歌山県内を走る特急列車の一部減便の方針が示されたのに対して、地域から様々な批判の声があがったというニュースはまだ記憶に新しいのではないのでしょうか。結果的には減便は予定通り実施されることになりましたが、行政と観光事業者、JR 等が連携して乗客の増加を図るために様々な取り組みを進めていくことが条件として付されました。公共交通機関に関しては何かと厳しい事情ばかり聞こえてきますが、実態はどうなのでしょう。



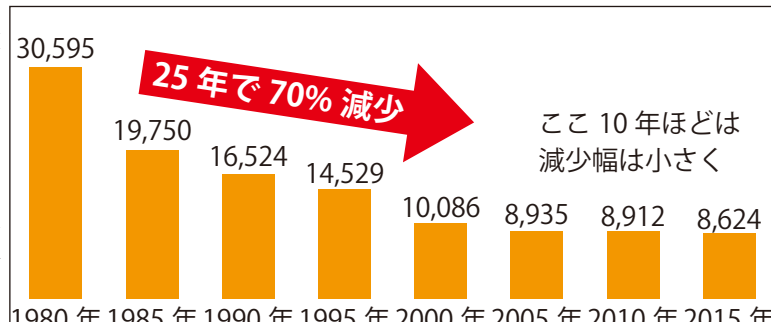
【和歌山市内の交通不便地域】
グレー以外の色が塗られている箇所は、最寄り駅・バス停から概ね 500m 以上離れており、かつ住民が居住している地域。
(出典：平成 27 年度 地域公共交通の概況実態調査及び自転車活用検討業務報告書)

交通不便地域は身近にも

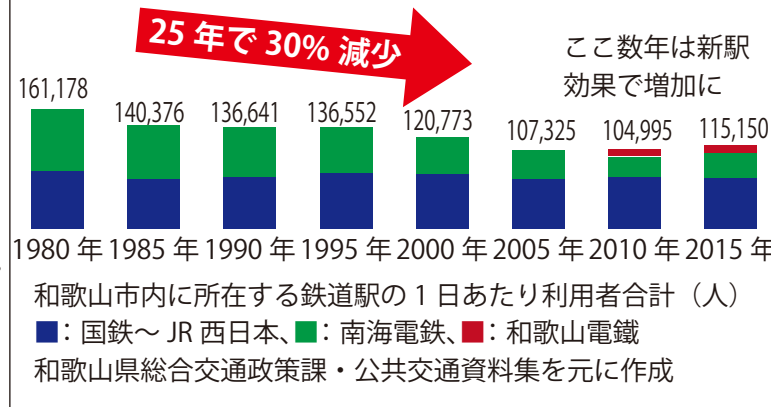
「近くに公共交通機関がない」というのは過疎地域だけの話ではありません。左図は和歌山市交通政策課と和歌山大学経済学部辻本研究室が連携して調査した、和歌山市内の交通不便地域の分布です。最寄りの鉄道駅やバス停から 500m 以上離れた地域が約 2 割程度に達しています。色が緑、黄、オレンジになるにつれて、その地域の居住人口が多いことを示しており、和歌山市内では太田有本、田尻、六十合をはじめ、あちこちに着色されているエリアがみられます。これらの区域に居住している人口は合計約 3 万人と推定されています。

利用しないから減便のスパイラル

和歌山市内を走る路線バスの利用者数は年間 3 千万人を超えている。1980 年から 25 年で 7 割減少。和歌山市内にある全ての鉄道駅の 1 日あたりの利用者合計も 1980 年から 25 年で 3 割減少。和歌山市内にある全ての鉄道駅の 1 日あたりの利用者合計も 1980 年から 25 年で 3 割減少。和歌山市内にある全ての鉄道駅の 1 日あたりの利用者合計も 1980 年から 25 年で 3 割減少。



和歌山市内を走る路線バスの年間利用者数（千人）
出典：和歌山市交通政策課資料



和歌山市内に所在する鉄道駅の 1 日あたり利用者合計（人）
■：国鉄～JR 西日本、■：南海電鉄、■：和歌山電鐵
和歌山県総合交通政策課・公共交通資料集を元に作成

政がまとめている資料です。和歌山市内を走る路線バスの利用者数は年間 3 千万人を超えている。1980 年から 25 年で 7 割減少。和歌山市内にある全ての鉄道駅の 1 日あたりの利用者合計も 1980 年から 25 年で 3 割減少。和歌山市内にある全ての鉄道駅の 1 日あたりの利用者合計も 1980 年から 25 年で 3 割減少。和歌山市内にある全ての鉄道駅の 1 日あたりの利用者合計も 1980 年から 25 年で 3 割減少。

公共交通事業の構造的課題

日本の公共交通機関は原則として独立採算制となっているほか、路線バス事業者の赤字を一部負担する「欠損補助」やバリアフリー車両を購入するための補助金制度などは縮小・廃止される一方、行政から公共交通事業者への補助金等の支援制度は原則として中小事業者に限定されています。他県では運転士不足を理由とした路線廃止や大幅減便を余儀なくされるバス会社も出ています。

公共交通事業者の赤字を一部負担する「欠損補助」やバリアフリー車両を購入するための補助金制度などは縮小・廃止される一方、行政から公共交通事業者への補助金等の支援制度は原則として中小事業者に限定されています。他県では運転士不足を理由とした路線廃止や大幅減便を余儀なくされるバス会社も出ています。

地域フォーラム 「“ケアする人を支える” 地域づくり」のご案内

高齢化・核家族化が加速するなか、「介護問題」が社会の大きな課題になっています。「高齢の妻（夫）が夫（妻）を介護する」「65 歳以上の高齢の子どもが更に高齢の親を介護する」「障害のある家族の介護」等、介護内容は多様です。そんな状況の中で、仕事や自身の日々の課題も抱えながら、家族を支えている人たちがたくさんおられます。また、家族だけで介護を担うことが不可能な場合、福祉制度を利用することになります。通所事業所やホーム、施設など様々な福祉現場で従事されている人たちも、それぞれの職場環境の中で「ケアする」支え手として頑張っておられます。人を支えるかわりでは、身体的な負担に加えて精神的な負担も大きいものがあります。そのストレスが被介護者への虐待行為に結びつく事件が近年相次いで起こっています。そんななかで、いま「ケアする人をどう支えるか」という視点が、必要不可欠であることが注目されています。一般社団法人共助のまちづくり協会では、現状を変える試みとしてケアする人の心の声や愚痴を、傾聴ボランティアが受けとめる場づくりに取り組んできました。2014 年 2 月に始まった週 1 回の「ケアする人のためのカフェ ぼちぼち IKOKA」では、500 名あまりの利用者をむかえています。4 周年の節目として、介護を担う人たちの直接の声を受けとめた経験をふまえ、あらためて「ケアする人を支える意義」や「何が求められているのか」を、みなさんと考え合うフォーラムを開催します。関心のある多くの方のご参加をお待ちしています。

日時 2月3日(土) 受付開始 13:00 開会 13:30 閉会 16:30
場所 和歌山ビッグ愛 9 階 りいぶる研修室 (和歌山市手平 2-1-2)
参加費 無料
定員 80 名 (申込みが必要です)
お申込みの際は、お名前、連絡先、年齢、所属団体 (あれば)、ご家族の介護もしくは福祉の仕事をしている場合はその旨を記載し、以下まで FAX でお申し込み下さい。
一般社団法人 共助のまちづくり協会
和歌山市美園町 5-5-3 TEL 073-427-3316 FAX 073-427-3307

オープニング
朗読サークル「りんく」 絵本読み聞かせ&群読
障害のある人とない人が一緒に、声の表現を楽しむ活動をしている皆さんの、心があつたかくなるステージです。

第 1 部
基調講演「ケアする人を支える」
講師 森口 弘美さん (京都府立大学公共政策学部実習助教)
福祉施設職員として「ケアする人のケア」プロジェクトに従事されてきた講師をお迎えし、また「ケアする人のためのカフェ」の活動に関わってきた傾聴ボランティアの皆さんやカフェ利用者の方から「ケアする人の心の声」をお聞きます。

第 2 部
はーとケア コンサート
ゲスト さわむらじげはるとにこにこ楽団
全国各地を駆け回り音楽活動を展開されているおふたりのステージ。身の回りにある物が、楽器に大変身～！大きな声で歌ったり、おどったり。心が繋がるあつたかほんわかコンサートです。

本事業は、わかやま NPO センター法人化 15 周年記念事業の一環として、県内の NPO のみなさんと共催で実施する「地域フォーラム」事業として開催します。

和歌山でも仕事がないってよく聞けど？
和歌山では山間部を中心に新しい働き方を模索する動きも見られるね
和歌山では山間部を中心に新しい働き方を模索する動きも見られるね
和歌山では山間部を中心に新しい働き方を模索する動きも見られるね

みんなで作る情報板 わかやまイベントボード

- カラダの授業・腰痛ケア講座
腰痛を解消するために必要となる「腰痛に関する情報」と、自身の「体のチェック方法」と「ケア方法」を学びます。
日時 1月28日(日) 10:00～12:00
場所 野かふえ・おりや (紀の川市桃山町神田 244)
参加費 1,500 円 (2 人 1 組の場合。お子さんが増える場合は要問い合わせ)
定員 10 組 (要申し込み)
問い合わせ・申し込み 紀の川フルーツ・ツーリズム (080-3846-2218)
備考 軍手と作品持ち帰り用の袋を持参。
- 「眠り」で悩んでいませんか
こころとからだの健康のため、より良い睡眠について知りましょう。
日時 2月3日(土) 13:30～15:30
場所 和歌山市中保健所 3 階大ホール
内容 渡部龍雄さん (京都大学准教授)
入場料 無料 (要申し込み)
問い合わせ・申し込み 和歌山市保健対策課 (073-488-5117・FAX 073-431-9980・メール hoke@ntaisaku@city.wakayama.lg.jp)
- カブトムシの幼虫をさがそう
四季の郷公園と一緒に探しましょう。
日時 1月28日(日) 9:30～11:30
場所 四季の郷公園
対象 3～5 歳児と保護者
参加費 無料
定員 60 名 (要申し込み)
問い合わせ・申込み 四季の郷公園ネイチャーセンター (073-478-3707)
備考 雨天中止。軍手とビニール袋持参。
- 竹で遊ぶ！起き上がりこぼしと花ポット作り
このほかの情報もたくさん掲載！「わかやまイベントボード」
URL http://eventboard.shiminjuku.jp/

